

第1学年 算数科学習指導案

児童 男10名 女5名 計15名
 授業者 音石美奈子

単元名	たしざん
指導事項	1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。
のぞむ児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算の意味が分かり、ブロックを操作しながら言葉で表したり、式に表したりすることができるようにする。 ・1位数と1位数同士のたし算が確実にできるようにする。 ・計算カードの並びをみて、その規則性を見つけ説明する。
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の加減計算や数の構成を基に、1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 ○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。 【数学的な考え方】 ○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。 【技能】 ○10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。 【知識・理解】

1 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、「あわせていくつ ふえるといくつ」で加法計算の意味と繰り上がりなしの加法計算の仕方を、「10よりおおきいかず」では $10 + 6$ 、 $12 + 3$ のような計算の仕方を学習してきた。前単元の「3つのかずのけいさん」では、3つの数についても加減計算ができることを理解し、それを1つの式にあらわしたり計算をしたりする学習をしている。

児童の実態を見てみると、計算はできていても、自分の考えや操作の仕方を説明する場面では、自信がもてずに声が小さくなってしまいう児童が多い。そこで発表の機会を増やし、自信をもって自分の考えを言えるように繰り返し指導しているところである。

(2) 単元を通して身に付けたい力について

本単元の目標は、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにすることである。1位数どうしの和が10より大きい数になる加法計算の仕方には、加数分解と被加数分解がある。どちらの場合も10の補数を見つけ、10のまとまりをつくっていることに気づかせ、「10といくつ」という方法は、いろいろあることを理解させたい。計算カードを使った学習では、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできるようにするとともに、数字の並び方や答えが同じカードの並び方を見て、規則性を考える活動を取り入れることで、数についての豊かな感覚を育てていきたい。

単元を通して、加法が用いられる場面を算数ブロックの操作で表したり、ブロック操作を図や言葉で表現したりする活動を行いたい。このような算数的活動を取り入れ、指導していくことによって繰り上がりのある加法計算の意味の理解を深めていくことができると考える。

研究の実践

【手立て1 指導過程の工夫】・・・単元計画の見直し、評価問題の吟味

【手立て2 「かく」活動】・・・自分の考えを絵や図・式で表す。ふりかえりを言葉で表す。

【手立て3 相互交流】・・・自分の考えを相手に伝える。相手の考えを自分の考えと比べながらきく。

2 単元指導計画（全13時間）

①9+4のけいさん

- 第1・2時 ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。
- 第3時 ・前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。（被加数が8の場合）
- 第4時 ・前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。（被加数が9・8の場合）
- 第5時 ・前時までの学習をふまえ、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。（被加数が7の場合）

②3+9のけいさん

- 第6・7時 ・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。

③かあどれんしゅう

- 第8時 ・計算カードを使って加法の計算能力を伸ばす。（おおきさくらべ）
- 第9時 ・計算カードを使って加法の計算能力を伸ばす。（かあどとり）

第10時（本時）・答えが同じカードを並べ、きまりを見つける。

- 第11時 ・被加数が縦、加数が横にそろったカードをのきまりを見つける。
- 第12時 ・計算カードを使って加法の計算能力を伸ばす。（びんご）

④まとめ

- 第13時 ・学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

3 本時の指導（13/10）

（1）目標

答えが同じになるカードを見つけ、きまりに気付くことができる。

（2）仮説との関わり

【手立て1 指導過程の工夫】

- ・指導過程の工夫、適用問題の数と答え方の工夫

【手立て2 「かく」活動】

- ・並んだカードをみて気付いたことや、ふりかえりを言葉で書く。

【手立て3 相互交流】

- ・全体やペアで答えの確認をする。
- ・学級全体で、カードの並び方や加法のきまりについて確認する。

（3）展開

段階	○学習活動 ●主な発問	・指導上の留意点 <<評価>>
つかむ 8分	<p>1 本時の課題を把握する</p> <p>○問題を提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> $9 + 6$ $7 + 8$ </div> <p>●（計算カードを見せ）答えが分かりますか。</p> <p>●計算をして答えの数の封筒にみんなでいれましょう。</p> <p>○課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> こたえが おなじになるかあどを ならべ ひみつをみつけよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・2枚カードの答えを確認し、15の封筒に入れる。 ・一人に2枚ずつ配り、答えの封筒に入れる。間違っても、そのまま入れる。

<p>深める 25分</p>	<p>2 課題を解決する</p> <p>○集団解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ●答えが15になるたし算のカードを並べてみましょう。 ●どうしてこのように並べたのですか。 <p>●答えが14になるたし算のカードを並べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どうしてまだあるとわかるのですか。 ●わかりやすいように並べてください。 <p style="margin-left: 40px;">5 + 9 6 + 8 7 + 7</p> <div style="border: 1px dashed black; width: 100px; height: 20px; margin-left: 40px;"></div> <p style="margin-left: 40px;">9 + 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ●残りのカードみんなで並べてみましょう。 <p>3 考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●並んだカードを見て、気が付いたことはありますか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【手立て3 相互交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードをたて1列に並べ整理し、数の並びに注目させる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・答えが14のカードを1枚封筒に残して並べさせる。 ・不足のカードがどうしてわかったのか、その理由を発表させたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・4つのグループで、答えが13, 答えが12, 答えが11, 答えが16・17・18のカードを並べる。 ・答えが間違っただカードが入っていた場合、どうしてそのカードが違うのか理由を発表させたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【手立て3 相互交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「縦に見ると、横に見ると」という視点を与え、並び方のきまりに気付かせる。 </div>
<p>まとめる 12分</p>	<p>4 学習内容をまとめる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・かいだんみたい ・たて ひだりは、したから9, 8, 7のじゅん みぎは、9, 8, 7のじゅん ・よこ ひだりは1ずつふえる みぎはおなじかず みぎにすすむと、かあどがへる </div> <p>5 適用問題を解く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●㊸, ㊹, ㊺, ㊻, はどんな式でしたか。どうして、そう考えたのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちから出てきた言葉をつなげていく。 ・並んでいる計算カードの何枚かを隠し、式を考えさせ、その理由を説明させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【手立て1・3 指導過程の工夫・相互交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてその式なのか、理由をペアで考えさせる。 </div>

6 学習を振り返る

- 今日の学習の感想を発表して下さい。

《数学的な考え方》

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の式に加数や被加数に着目し、並び方の決まりに気付くことができる。(ノート・発表の様子を観察)

- ・感想の視点(分かったこと, 考えたこと)を示す。

【手立て2 「かく」活動】

- ・今日の学習でわかったことを絵や文で書く。

(4) 評価計画

評価規準	概ね満足できる状況	支援を要する児童への手立て
<p>《考え方》</p> <p>1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の式に加数や被加数に着目し、並び方の決まりに気付くことができる。</p>	<p>数の並びに着目し、並び方のきまりを見付けることができる。</p>	<p>支援を要する児童への手立て</p> <p>カードの数の並びに着目するように声をかける。</p>

(5) 板書計画

